

# グローバルCOEプログラム

(19年度予算額 158億円)  
20年度予算額 340億円

## [趣 旨]

グローバル化が一層進展し、国際競争力が激化する今後の社会においては、国際競争力のある大学づくりをさらに推進し、世界に伍する教育研究を積極的に展開することが求められている。

このため、世界最高水準の大学づくりを目指し、平成14年度から実施している世界的な卓越した教育研究拠点の形成の支援（「21世紀COEプログラム」）を充実・強化する。

## [概 要]

- 「21世紀COEプログラム」の成果（大学改革・教育・研究）を踏まえ、これまでの基本的な考え方を継承。
- 各大学の個性や特色に応じ、各学問分野の世界的な教育研究拠点が形成されるとともに、各大学が全学的視野に立って戦略的な研究教育体制の構築に取り組むなど、大学全体の活性化につながることも期待。
- 基本的な仕組みの概要は以下のとおり。
  - ・ 対象：大学院（博士課程）レベルの専攻等を対象（優れた研究機関との連携を促進するとの観点から他大学と連携した取組も対象）。
  - ・ 公募：全分野において公募。（【学際、複合、新領域】については毎年公募。平成20年度は【医学系】、【数学、物理学、地球科学】、【機械、土木、建築、その他工学】、【社会科学】、【学際、複合、新領域】の5分野を公募。60件程度を採択予定。）
  - ・ 申請：学長を中心としたマネジメント体制の下、如何にして世界的な教育研究拠点到育成するかという大学としての戦略に基づき、学長から申請。
  - ・ 審査・評価：日本学術振興会を中心に運営される専門家、有識者からなる審査・評価委員会において、公平・公正な第三者評価を実施。（審査・評価に外国人研究者等を積極的に登用するなど国際競争力を評価するための体制を整備。）
  - ・ 支援期間等
    - ・ 1件当たり年間5千万～5億円程度を原則として5年間継続的に交付。
    - ・ 事業開始2年経過後に中間評価、期間終了後に事後評価を実施。
  - ・ 審査の視点：（「21世紀COEプログラム」の卓越した拠点は継続させつつ、新規性・将来性も考慮した多元的視点により審査）
    - ① 研究教育活動実績や将来性
    - ② 拠点形成計画の内容（特に国際的であるという点を重視、特色に応じたオンリーワンの研究活動を世界に発信するなどの観点にも配慮。）
    - ③ 大学としての教育研究推進方策
    - ④ 大学としての若手研究者の支援体制（助教等の若手研究者が独立して研究に専念できる環境の整備や博士課程学生の経済的支援など）
- 平成19年度採択実績
  - ・ 採択分野：【生命科学】、【化学、材料科学】、【情報、電気、電子】、【人文科学】、【学際、複合、新領域】の5分野
  - ・ 採択件数：63件（28大学）（申請件数：281件（111大学））

